

APAC 初、自然資本取り組みを SBTN のターゲットトラッカーで公表

キリンホールディングス株式会社（社長 COO 南方健志）は、SBTN^{※1} Step1 および 2 の検証を完了し、APAC 地域に本社所在地（本社所在国）をもつ企業として初めて、SBTN のターゲットトラッカー^{※2} で取り組みを公表しました。

これは、独立した検証機関である Accountability Accelerator による検証を受けており、第三者による客観的な確認がされています。これにより、キリンホールディングスにて実施した分析が、利用可能な最新の科学的知見に基づいて実施されていることが確認されました。

水資源や土地利用、生物資源に関する優先地域および課題をステークホルダーに公表した上で、自然資本関連の課題への対応をさらに強化していきます。

※1 Science Based Targets Network の略。2019 年に NGO グループによって設立された市民社会と科学主導のイニシアティブ。持続可能な地球環境のための科学的な目標を設定するための方法やリソースを開発し提供。

※2 SBTN が運営する公開データベースで、SBTN の手法に基づき自然関連課題の評価や優先順位付け、目標設定などを進めた企業の取組状況を公表するためのプラットフォーム。[Target tracker – Science Based Targets Network](#)



【背景】

キリングroupは、生物資源や水資源などの「自然の恵み」をもとに事業を行っています。そのため、淡水、土地、海洋、生物多様性といった自然の広範な側面を対象とする、統合的で科学に基づく SBTN 技術ガイダンス v1.2^{※3} に沿って目標設定を検討してきました。

今回、ガイダンスが示す Step1（分析・評価）および 2（解釈と優先順位付け）の方法論に基づき、サプライチェーン上流から自社製造拠点における水資源と土地利用に関して重点課題を評価し、優先順位付けを行いました。

Step1（分析・評価）では、自社の直接操業と上流のサプライチェーンにおける経済活動が自然に与える影響から、重点課題を特定しました。重点課題の中で、直接操業拠点については水利用と水質汚染に関連する評価対象を、上流のサプライチェーンについては SBTN が示す高リスク産品に該当する調達物の情報を整理し、対象地域における水利用・水質汚染・土壌汚染・土地利用・土地利用の変化を評価しました。

Step2（解釈と優先順位付け）では、各対象地域における自然の状態や生物多様性の状態を複数の指標を用いて評価、スコアリングに基づいてランク付けし、流域・地域レベルで目標設定を行うべき優先地域を抽出しました。

※3 SBTN が 2025 年 9 月にリリースしたガイダンス [SBTN-Step-1-and-2-Validation-Requirements-and-Recommendations-v1.2.pdf](#)

【今回の取り組みの成果と今後に向けて】

今回の Step1 および 2 により、科学的なアプローチによって優先すべき地域や課題を改めて確認することができました。また紅茶葉原料生産地であるスリランカ、水ストレスの高いオーストラリアや米国での今まで取り組みを推進してきた地域や課題が科学的な裏付けを得たことも同時に確認できました。

生物資源や水資源などの「自然の恵み」をもとに事業を推進するキリングroupは、今後も SBTN などのガイダンスをもとに取り組みを推進します。特に、Step3 に関連する具体的な目標設定に向けた検討や、Step5 に関連する「自然の状態」を測る取り組みへの貢献を進めて行く予定です。

【優先地域で行っている主な取り組み概要】

今回の Step1 および 2 で特定された、キリングgroupとして優先すべき地域で、現在までに実施している具体的な事例は下記の通りです。

■ 紅茶葉原料生産地であるスリランカにおける自然資本への取り組み※4

スリランカは、キリンググループの午後の紅茶の原材料となる紅茶葉の主な生産地です。Step1 および 2 において、水利用、水質汚染、土地の対策が求められる場所と特定されました。現地では気候変動の影響、水質汚染、土地の課題が生産者や地域の生活、野生生物の生息にも深刻な影響を与えています。キリンググループはこれまでに、調達農園を特定し、持続可能なビジネスを推進できるように、環境的・社会的な課題に 10 年以上取り組んでいます。具体的には、紅茶葉生産地におけるレインフォレスト・アライアンス認証取得支援などの環境再生農業の推進、水源地保全※5などを推進してきました。2025 年には紅茶農園における科学的な情報を集積し、環境インパクトを定量的に確認※6しました。

※4 [スリランカにおける紅茶農園支援 | 原料生産地と事業展開地域におけるコミュニティの持続的な発展 | KIRIN - キリンホールディングス株式会社](#)

※5 [水資源の取り組み | 環境 | KIRIN - キリンホールディングス株式会社](#)

※6 [キリンホールディングスと東京大学が、スリランカ紅茶農園の環境的インパクトを定量的に確認 | 2025 年 | KIRIN - キリンホールディングス株式会社](#)

■ Lion 製造拠点における水リスク※7 対策の取り組み

キリンググループのオセアニア酒類事業を担う Lion Pty Ltd（以下、ライオン社）は step1 および 2 において、水利用の対策が求められる場所と特定されました。現地では、気候変動などの影響により、深刻な水ストレス※8が地域の生活や野生生物の生息に深刻な影響を与えています。ライオン社はこれまでに、水ストレスの高い Tooheys と Castlemaine という 2 つの醸造所で、使用した水を浄水し、再利用できる施設※9を建設・増設し、大幅な節水を実現しました。これにより地域や他産業で利用できる水資源が確保され、地域の水資源問題に大きく貢献しています。

※7 物理リスク（水不足や洪水など）および批判リスク（評判に関するリスク）などの水に関するさまざまなリスクを指す

※8 水不足

※9 逆浸透膜（RO）水リサイクルプラント [水資源の取り組み | 環境 | KIRIN - キリンホールディングス株式会社](#)

■ New Belgium Brewing における水リスク対策の取り組み

キリンググループの米国クラフトビール事業を担う New Belgium Brewing の Fort Collins は、Step1 および 2 において、水利用の対策が求められる場所と特定されました。現地では気候変動の影響や山火事、人口増の影響により、水資源の課題が地域の生活や野生生物の生息に深刻な影響を与えています。New Belgium Brewing は現在までに、醸造所での節水活動のほか、水源地付近での森林や湿地の保全を通じた水資源問題への取り組み支援を推進しています。また、2025 年には、ネイチャーポジティブへの移行をキリンググループとして検討するため、この醸造所に焦点を絞った TNFD 自然移行計画のパイロットプログラムに参加※10しました。

※10 [TNFD 自然移行計画パイロットプログラムに参加 | New Belgium Brewing における水リスクの高い醸造所で自然移行計画立案 | 2025 年 | KIRIN - キリンホールディングス株式会社](#)

キリンググループは、自然の恵みを原材料に、自然の力と知恵を活用して事業活動を行っています。生物資源・水資源・容器包装・気候変動などが複合的に関連する環境課題に対し、キリンググループは統合的な視点から自然と人に「ポジティブインパクト」を与える取り組みを進めます。

そして、豊かな地球の恵みを将来へつなぐという思いを、バリューチェーンに関わるすべての人々と共有します。

<参考>

・「キリンググループ環境ビジョン 2050」

<https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/mission/>

・キリンググループ「環境報告書 2026」

https://www.kirinholdings.com/jp/investors/sustainability/env_report/